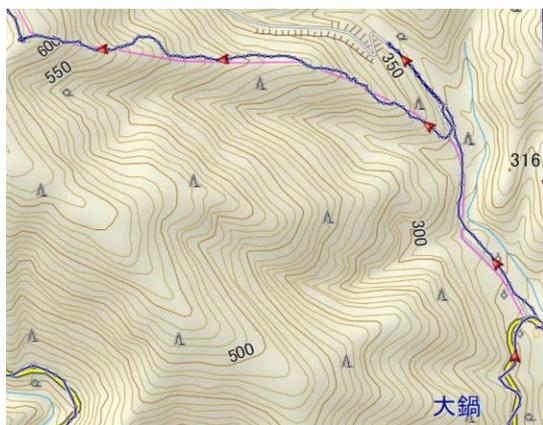


長泉麗峰山の会・	文・北村 写真・後藤、北村 GPS・後藤、北村
山行番.	NO. 2048
日時	2023年12月9日(土)
山域	天城 十郎左エ門(954m)
コース	標高240m林道発(7:54)-取り付き点 標高300m(8:09)-779m峰(9:48)-縦走路合流(10:54)-尾根・泥崖 班分け地点(11:10)-十郎左エ門山頂 標高954m(12:04)-標高927m昼食(12:33~13:00)-標高992m尾根(13:13)-標高700m・仮称鎌尾根(14:28)林道 標高450m(15:37)-標高240m下山(16:21)-長泉(反省会)
標高差	上・下り=約714m(上り返し含むGPS記録1054m)
難易度	非常に困難 レ 困難 やや困難 普通 やや易しい 易しい
G会長が握手で出迎え、天城の怪峰登頂!	
参加者	後藤(GL)、加藤、山田、北村=4名

G会長の登山計画書で初めて知った山、天城連峰の十郎左エ門(標高953m)の山行に参加させていただいた。自動車事故で痛めた首の不安が少しあったが、計画されたコースは地図に険しい地形も無い低山。登山復帰の慣らしもできるかなと思った。ただし、稜線までは上り下り共に全てバリエーションルート。事前に地図上でルートを辿りながら頭の中で一日の歩きを想像して当日を向かえた。

ネットでこの山の情報を調べた時、登山の基本を教えてくれた山岳ガイドがプライベートで登った記事を見つけた。山頂直下は無理せず安全なルートから上ったと書いてあるが、雑談では手こずってロープを使ったといていた…山名は記憶に無くても同じ山の事だとピンときた。G会長は「怪峰」と呼ぶ十郎左エ門。簡単にはいかない予感もあった。

当日は朝から快晴、ひんやりした空気の中をスタートした。林道を400mほど歩いた2つ目の沢の先、標高300mから森に取り付く。ひとつ目の沢を過ぎて2つ目の沢に注意しながら進むが標高300mを超えても沢が現れない。「行き過ぎた」との話になり戻ると、ひとつ目の沢が取り付き点だった、200mほど行き過ぎていた。朝一番から4人揃って沢を見落したのだろうか?地形図が100%正しいとは限らないとG会長から教えていただいた。



行き過ぎて戻った場所



標高300m 取り付き点

森に入ってから進む方向も明瞭で雑談しながら進んだ、みんなで地図を片手に常に現在地を確認、把握しながら歩いた。

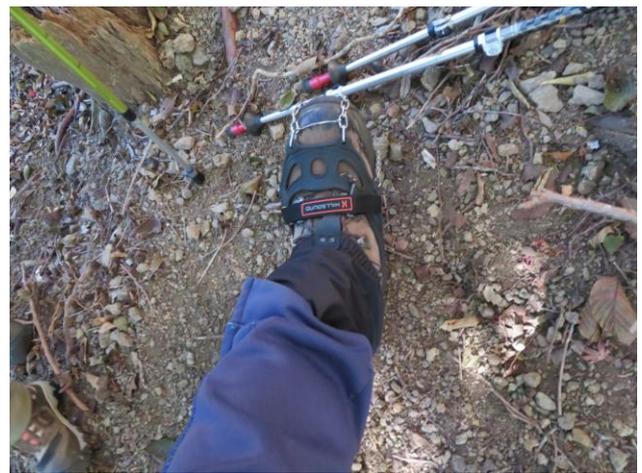
毎回の事だが、少し歩くと肌寒さは暑さ変わった。全員上着を脱ぎ、Kさんは腕まくり、Yさんは半袖、先頭のG会長はズボンを膝下まで上げた。太い筋肉質のふくらはぎがアスリートのようにカッコ良い。「さすが登山の猛者」と思いながら静かな森を進んだ。

標高約700m、急坂の下でG会長とYさんが軽アイゼンを装着した。私はひとまず装着は様子見したが、乾燥して滑りやすい地面を安定して歩くのに有効と学ぶことができた。

スタートから2時間かからずに779mの峰に到着、林道からの取り付きでタイムロスしたものの、登山計画書よりも早いペースで工程が進んだ。



半袖姿のYさん



チェーンアイゼン装着(撮影:後藤)

G会長が山行計画の地図に「大下り、大上り」と書いた地点を通過する。60m下って80m上り返す道で、一番低い場所は地図からやせ尾根を想像していた。しかし、実際には太く緩やかな尾根だった。地図で想像したイメージと実物は違っていた、もっと経験を積んで地図から地形を想像する力もつけていきたいと思った。

Kさんがホコリダケを見つける。初めて見るキノコだ、白くて丸くて、ちょっと可愛いキノコに癒される。大上りをのぼりきると明るく平たい稜線に出た。気持ち良い歩きになるが、常に現在位置の確認は怠らない、というより地図読みが楽しくなってきた。



ホコリダケにほっこり



現在地を確認中のG会長とKさん



スナップ写真①G会長、Kさん、Yさん



②Kさん、K (撮影:後藤)

更に標高を上げると十郎左エ門が見えてきた。低山ながらピラミダルな山容に存在感を感じた。まだ、距離はあるものの確実に山頂に近づいている。

この先、バリルートの尾根は縦走路(登山道)と合流する。そして、最後の急登を上れば山頂だ。十郎左エ門登頂はもう時間の問題かと思った。このときは・・・。

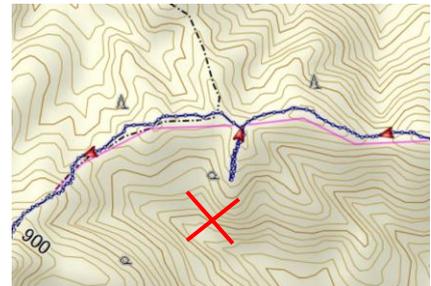
地図から、尾根がやや左にカーブし始める場所が縦走路の合流点と頭に入れていた。そして、左カーブが現れ道なりに進んだ。傾斜が緩い道が続くはずだが急激に下っていく。

Yさんが違和感でチェックしたとき、ルートを反れた事に気づいた。視覚に惑わされ、違う尾根に引き込まれていた。「誤」「正解」の尾根の写真を下記に添付した。

先頭のYさんは悔しがったが、自分が先頭でも同じ方向に向かっていて、正規ルートに復帰するために50mの上り返しが待っていた。G会長が優しくいった「ヤマちゃん、ドンマイ」「今夜のビールはヤマちゃんのおごりかなあ〜(笑)」



←十郎左エ門が見えてきた(撮影:後藤)



ルート間違い→



間違えて進んだ道(違和感が無い)



正しい道(見過ごしやすい)

正しいルートに復帰して一安心して先に進んだが、今度はルートに迷う急斜面が現れた。Kさんが一人で先の様子を探ってきて直登できそうとの見解、G会長(CL)は左の尾根から上る方が安全だろうとの意見。こういう時はCLが判断して統一行動を取るが(反省会での会長コメントより)、この場合は、勉強のために泥崖、尾根の2班に分かれ標高40m上の稜線で合流することになった。YさんはG会長のリード、指導で尾根コースを、私はKさんのリード、指導で泥崖を上った。道なき崖の斜面をサクサクで攀っていくKさんの圧巻のルーファイを見て学んだ。脆い地面、枯れ木だらけの斜面だが登山道のようなロープは無い。手足の置き場など貴重なアドバイスもいただけた。

G会長チームより少しだけ先に到着し、上がってくるであろう場所にいくと丁度G会長が上ってきた。続いてYさんも元気に到着。G会長が撮影したYさんが攀っている写真から尾根コースもかなり険しい斜面だった事が分かった。



ルートを探るKさん



尾根コースを這い上がるYさん(撮影:後藤)

再び、心強い4人パーティに戻り、残るは山頂直下の急登のみ。登頂した気分景色を見ながら進むと、また危ない斜面が現れた。斜度はさほどでも無いが、信用して手をかけられる木や岩がない。万一滑って転がると、その下の谷に吸い込まれる。高山の岩稜帯のような数百mの高度感がない分、より一層事故が起きかねない危険な場所だと思った。

G会長の指示により、Kさんが三本繫いだシュリングを支点に掛け、それを手がかりに急登を一段クリアした。しかし、先にまた急登が現れた。20mのザイルを出す、G会長は滑り止めのコブ(結び目)をつけ、Kさんはザイルを支点に結び、自分と繋ぐ。手早い連携は圧巻だった。

11月に沼津の大平山でザイルワークの勉強会を実施していただいた。1か月たらず実際の現場でザイルを使う機会に恵まれた。偶然にも勉強会と同じメンバーだ。G会長、Yさんに続き安全に登りきる事ができた。メンバーに感謝です。



シュリングを使い安全に上った



ザイルを補助に奮闘するYさん(撮影:後藤)



最後の坂をよじのぼるKさん(撮影:後藤)

危険か所を突破してザイルを回収、最後の急坂をよじ上ると山頂の三角点が目に入った。「山頂だ！」先にのぼったG会長が一人ひとりを握手で出迎えてくれた。

低山ながら一筋縄で行かなかった登頂に達成感もひとしお、出迎えてくれた会長の優しい笑顔が目に焼き付いた。この日一番印象的なシーンを本報告書のタイトルにした。



山頂到着! 頑張りました(撮影:後藤)



写真左: Yさん 写真右: Kさん、K

山頂で食事にする予定だったが、風が強いため落ち着ける場所まで移動して食べるようになった。山頂の下で軽く行動食は食べていたが、みんな空腹でガス欠ぎみだった。

帽子が飛ばされそうな強風に逆らって、稜線を進み、4人で食事を取るのに丁度良い広さの平坦地で食事をとった。

エネルギーを補給して、みんな消費した体力が復活、食後にすぐ上の稜線に出ると富士山がキレイに見えていた。



風に煽られながら前進(撮影:後藤)



食後にYさんと景色を楽しむ(標高 930 付近の稜線)

13:00 に行動を再開、約 15 分で標高 992m のピークに到着した。長さ 150m 程の平な場所に下山する尾根があるが、地形がなだらかで入り口の判別は難しかった。Kさんがここでは?と指さす。全員で確認した。尾根の方角は地図と一致しており、良くよく見ると地形も地図と近似している、G会長の意見も一致して尾根を下った。

2か所ほど小さなルート間違えはあったものの、早い修正で計画通りのルートを順調に下った。開けた場所からは、北西方向に再び、天城の怪峰(十郎左エ門)が見えた



順調なくだり G会長とKさん



天城の怪峰「十郎左エ門」(撮影:後藤)

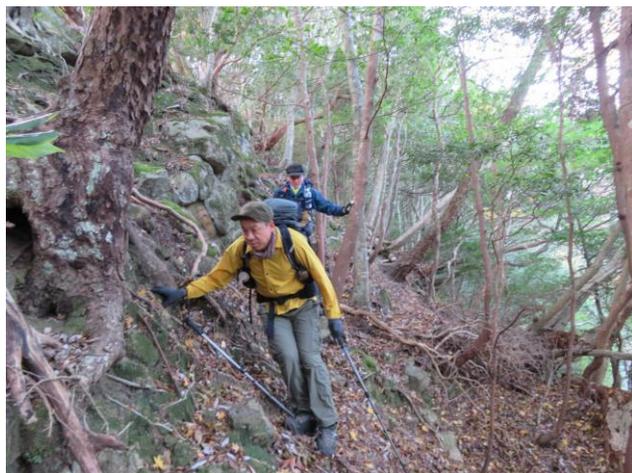
地図ではルートに岩マークは一つも無かったが、大小の岩が現れ始めた。石垣のような岩場、高さ 10m くらいに見える大きな一枚岩もあった。しっかりした岩に見えたが、硬い土のような岩質で手をかけて体重をかけてみると岩が剥がれ落ちた。脆く危険な岩だ。

そして地図から想像できなかつたやせ尾根が現れた。脆い岩質に加え両側は急斜面、垂直に切れ落ちた崖もあった。ザイルを準備をしかけたが、G 会長、K さんのリードで何とかクリア、緊張の下りはしばらく続いた。十郎左エ門の上りも緊張感があったが、この尾根がこの日の核心部となっただろうか？ G 会長はここを「鎌尾根」（仮称）と名付けた。

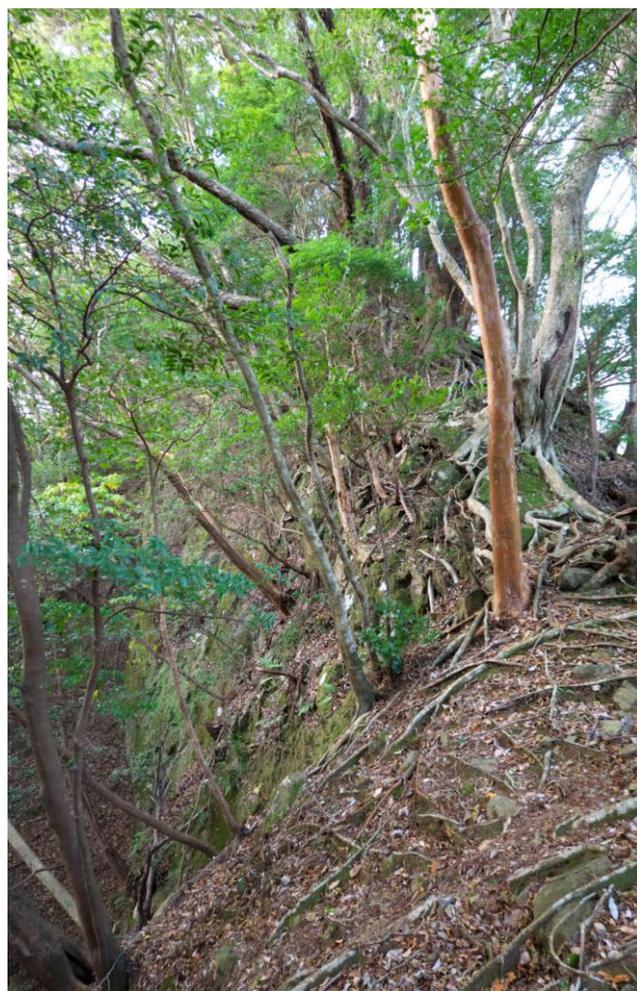


標高 700m 付近から続いた危険か所 (GPS: 後藤)

十郎左エ門・鎌尾根を下る



左からトラバース (撮影: 後藤)



緊張が続いた (撮影: 後藤)

通過後に振り返ると垂直に近い崖

危険か所をクリアしていくと、植生が針葉樹にかわった。G会長が「人工林まで下りた、もう危ない場所はないだろう」と安堵の表情を浮かべた。

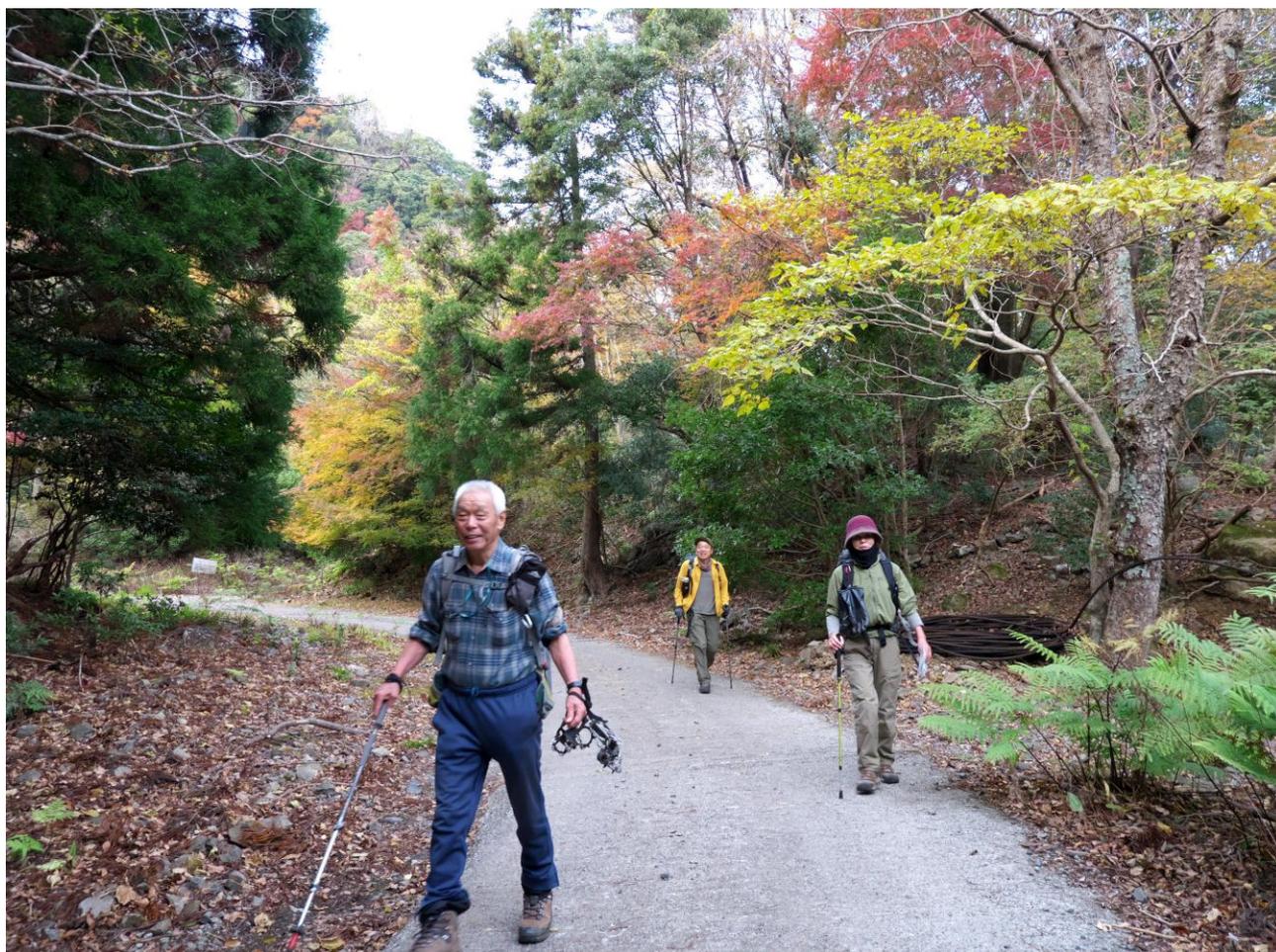
台風が去って太陽が出てきた気分だ。標高を下げると、まだ残る紅葉が綺麗で、その下のワサビ田も心穏やかになる長閑な景色だった。内容盛りだくさんの山行を全員元気に下山した。首の負傷を忘れるほど充実した一日になった。



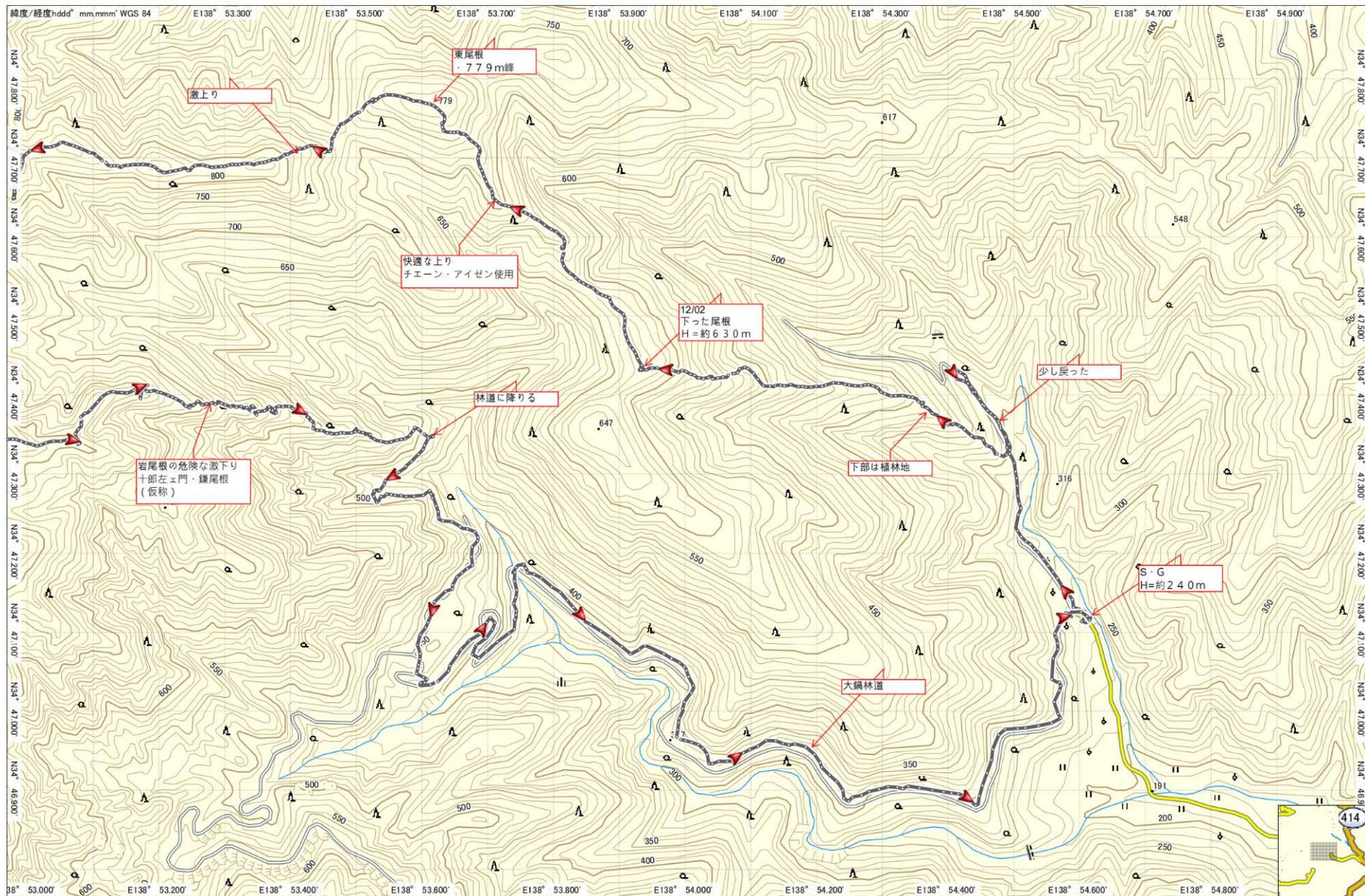
林道に近づくと紅葉がキレイだった。



わさび田



安堵の表情で林道を歩く。一日ご一緒させていただきありがとうございました。

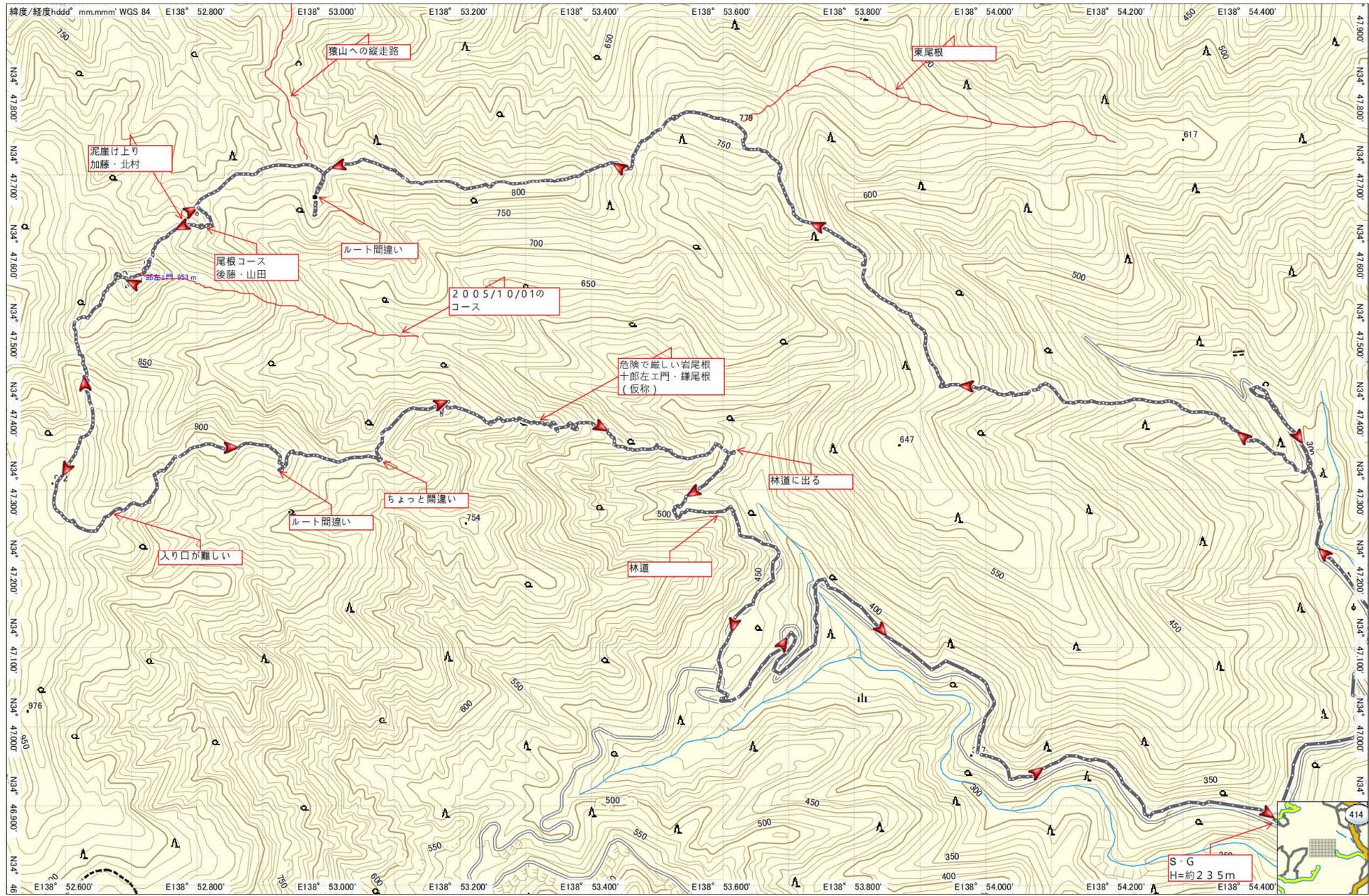


Japan Topo 10M Plus V3
 Copyright © 2014
 Garmin Corporation 1005-2014

内蔵メモ

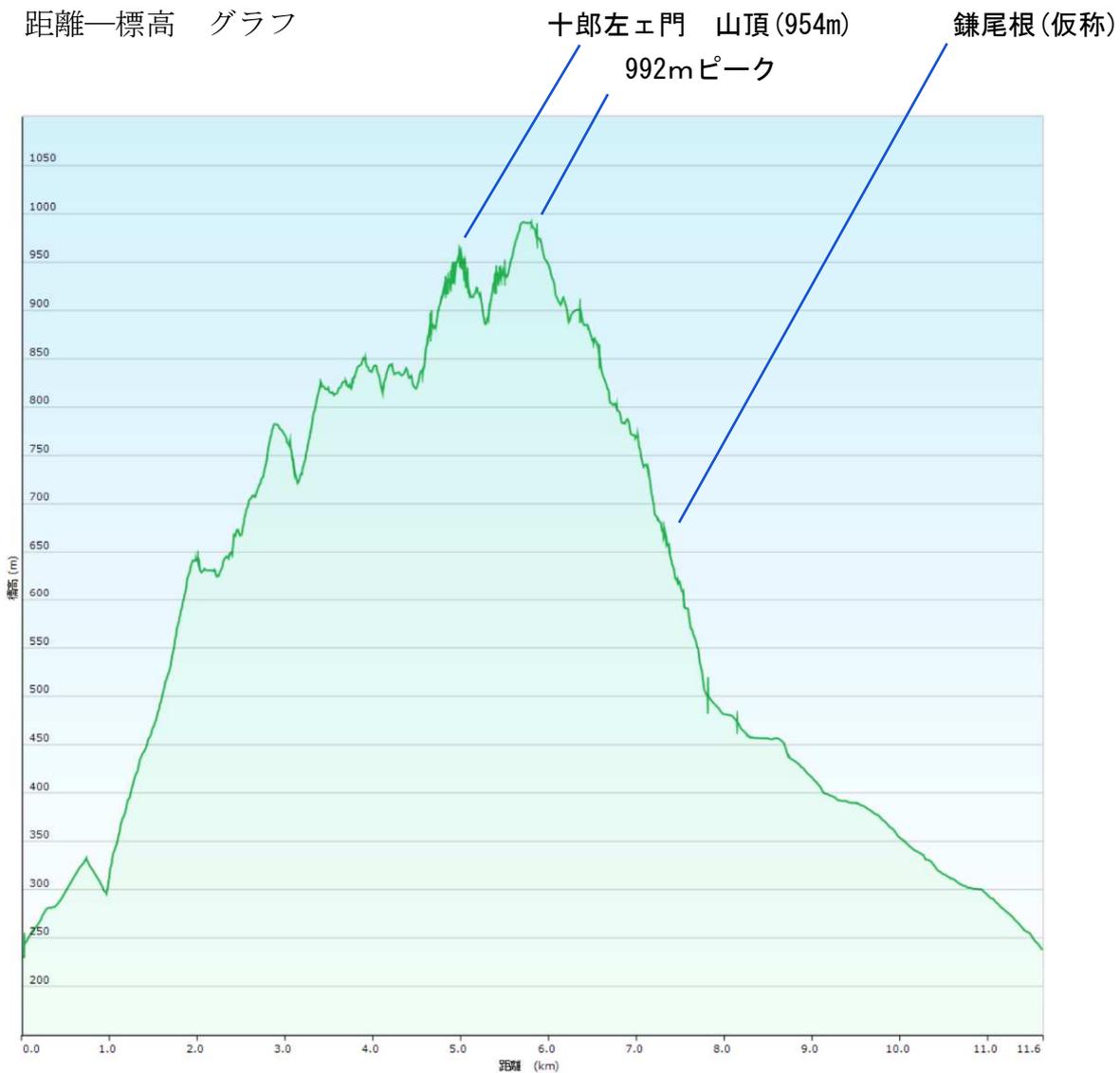
GARMIN



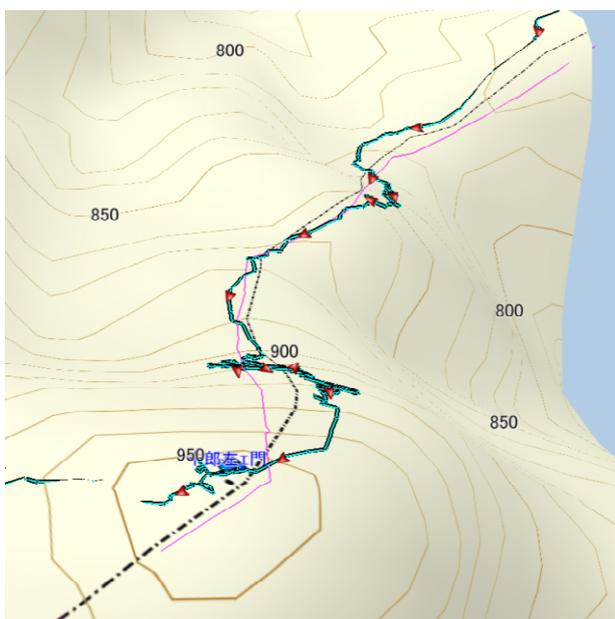


参考（北村のGPSより）

距離—標高 グラフ



十郎左エ門 北斜面 3D イメージ



十郎左エ門 鎌尾根 3D イメージ

